

○ 関係者さまから出されたご質問やご意見です

Q：眺望スペースができるとはどういうことですか？

A：水門の幅は瑞穂橋での川幅と同じにしており、現況の河口部が広がっている部分を有効に活用することで、眺望スペースをつくることができます。

Q：遊歩道にクラックがあるが、対策は考えていますか？

A：クラックは補修し、経過観測をしています。また、水門の工事区域内ですので、工事の際に改善工事を実施します。

Q：工事期間中の国道海側の歩道は通行可能ですか？国道山側の歩道は一部区間で無いため安全対策が必要なのではないですか？

A：来年の秋以降に工事請負業者が決まるので、その際に、規制時期、範囲、方法などの詳細な説明をします。

Q：国道の交通規制はありますか？

A：基本的に国道の交通規制は行わない予定です。しかし、水門ゲートなど大型構造物はクレーンで搬入するため、夜間の交通規制が必要となる場合があります。歩行者への安全対策とともに別途説明をします。

Q：操作室を下に降ろしてしまったら、津波で沈んでしまうのではないですか？操作室は、門柱の上部に設置するほうが良いのではないですか？

A：大前提として、津波到来前に水門が確実に降下する機能を確保します。その上で、景観性や観光価値観を考慮して、操作室はなるべく目立たない地上に設置することとしました。

《熱海市熱海地区における津波対策の進捗状況について》

津波対策水門以外の主な進捗状況は以下のとおりです。

＜ハード対策＞

- ・熱海和田川の南側で渚4工区（新たなデッキ）の整備を実施中です。これまでは海中の工事が中心でしたが、来年度からは埋立て工事に着手予定のため、工事の進み具合がより目に見えるようになります。

＜ソフト対策＞

- ・防災ガイドブックを更新し、令和2年5月に全戸配布しました。
- ・避難ビルの新たな指定について協議中です。
- ・家の無料耐震診断（昭和56年5月以前建築の木造住宅）、耐震補強補助事業を継続して実施しています。

＜次回発行予定＞

次回の発行は、初川水門の工事請負業者が決定し具体的な工事工程が明らかになる、令和3年秋頃を予定しています。

本通信に対するご意見、ご質問等については、以下のお問合せ先までお気軽にどうぞ！
なお、津波対策に関する資料は、熱海土木事務所のホームページでもご覧いただけます。

津波対策地区協議会

検索



＜お問合せ先＞

- 津波対策全般に関すること
静岡県熱海土木事務所 企画検査課 0557-82-9171
熱海市観光建設部 都市整備課 0557-86-6402
- 津波対策水門及び渚4工区の工事に関すること
静岡県熱海土木事務所 工事課 0557-82-9181



なぎさ通信

創刊号

＜「なぎさ通信」創刊にあたって＞

静岡県（熱海土木事務所）と熱海市では、平成29年10月に公表した「熱海市熱海地区における津波対策の方針」に基づき、ハード・ソフトにわたる総合的な地震津波対策を実施しています。

熱海地区のハード対策の一つである水門整備（糸川、初川、熱海和田川）の設計が進み、令和3年度から初川水門に工事着手できる見込みとなりました。

水門工事は長期間に渡ることから、水門整備の様々な情報を「なぎさ通信」として発刊し、進捗状況や工事工程、規制情報などを随時お知らせしていきますので、事業へのご理解、ご協力をお願いします。

また、本通信では、その他の津波対策や熱海港周辺で実施している港湾事業も併せてお知らせしていく予定です。

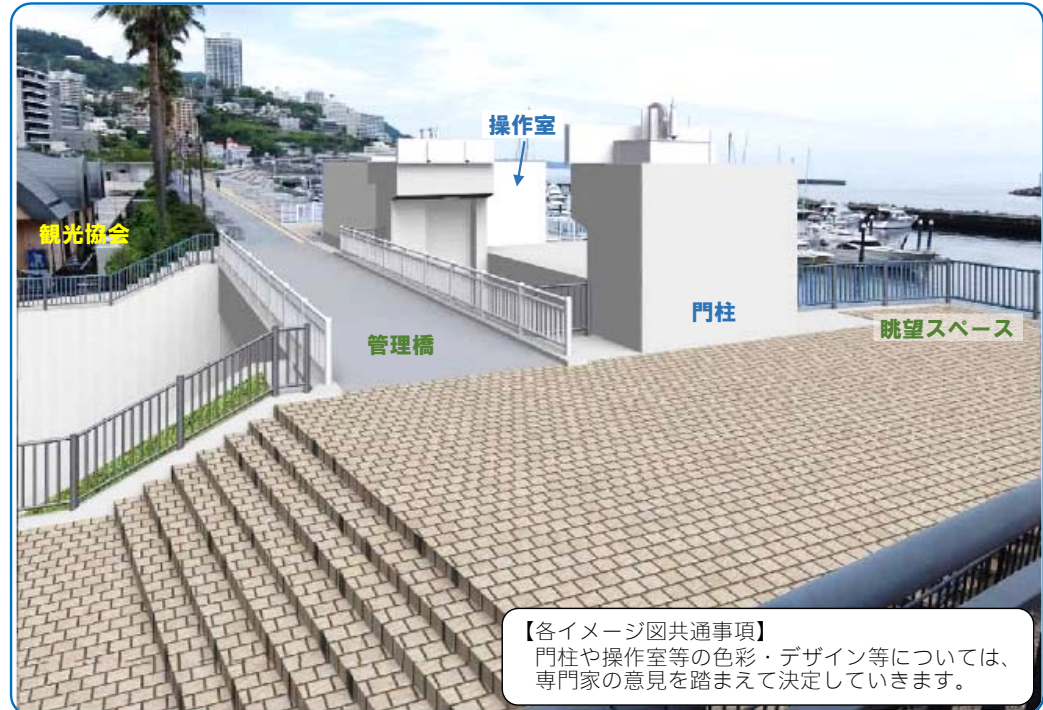
＜今回のお知らせ＞

令和2年12月8日、地元町内会や関係団体等の代表者で組織した「熱海市熱海地区津波対策地区協議会」の皆様を対象に「津波対策の進捗状況に関する報告会」を開催しました。

報告会では、水門の基本的な構造や役割のほか、整備箇所が熱海観光の一等地であることから、利用者の利便性や周辺になじむような景観への配慮など、当地に相応しい構造物となるように工夫した点を説明しました。

創刊号では、これら報告会の内容についてお知らせします。

初川水門完成イメージ（サンレモカフェ付近から望む）



【各イメージ図共通事項】

門柱や操作室等の色彩・デザイン等については、専門家の意見を踏まえて決定していきます。

○ 水門計画について（糸川、初川、熱海和田川）

○ 計画のポイント（3水門共通）

- 「揺れを感じたらすぐ避難」を原則のもと、基本方針で位置付けた海拔6.6m(デッキ高さ)までの津波を防御する水門です。
- 地震・津波発生時に、自動又は遠隔操作で確実に閉鎖する構造です。
- 親水公園(デッキ)利用者の視点や動線をできるだけ妨げない計画とします。

○ 具体的な整備コンセプト（初川水門）

- ① 水門の高さは観光協会より低くし、門柱を極力スリムな形状とすることで、周辺の景観に馴染む構造としています。
⇒操作室を水門の横に置くことで、門柱をスリム化しました。(右上図参照)
- ② 水門点検用に管理橋を設置し、通常は一般開放します。
⇒デッキ上の遊歩道がつながり、公園利用者の利便性が向上します。(右下図参照)
- ③ 既存施設（観光協会、地下駐車場、サンレモカフェ）の機能を維持したまま、水門を整備します。
⇒基本的に、河川内やその周辺部で工事を施工します。(通年施工)

○ 事業主体 静岡県（熱海土木事務所）

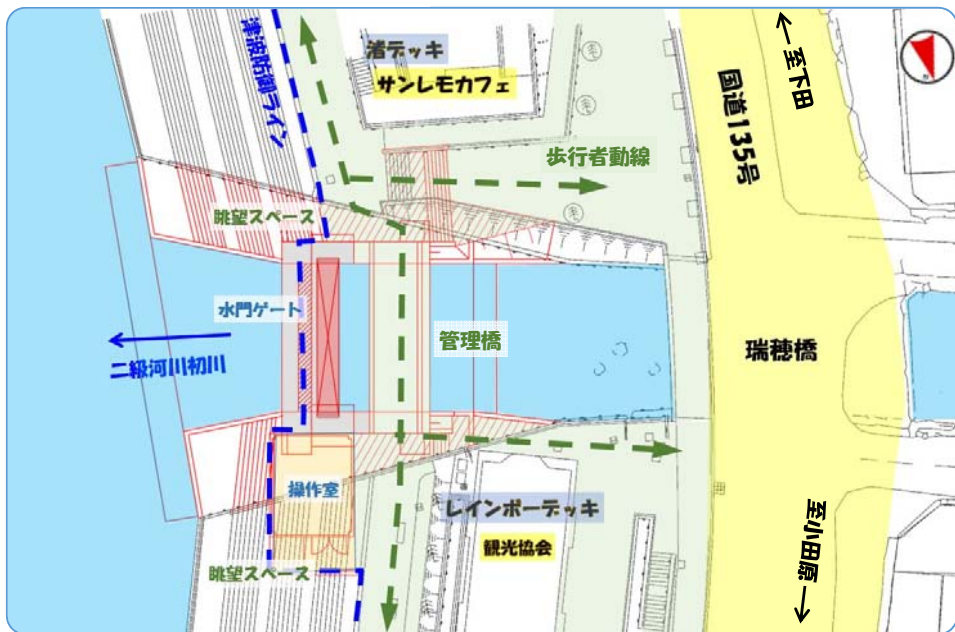
○ 整備費用 算定中

○ 整備スケジュール

・水門1箇所当たり4年程度での整備を予定しています。

水門	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9～
初川水門	←			→			
糸川水門又は熱海和田川水門					←		

○ 初川水門平面図（上空から見た図面）



～すこしの工夫で見た目が変わります～



（操作室の中には、扉を上下に動かすための機械や設備が入っています）



・操作室を水門本体の横に置きました。
・門柱をスリム化しました。

Step3 初川水門完成イメージ（国道(瑞穂橋)から望む）



～遊歩道を歩きながら～

初川水門完成イメージ（レインボーデッキから望む）



＜関係者さまのご意見等②＞

- 工事期間中はデッキの一部が利用できなくなるため、観光シーズン時の規制などは早めの周知をお願いしたい。

＜関係者さまのご意見等①＞

- 管理橋ができるとデッキ間の往来が容易になり、観光客など公園利用者の利便性が向上する。
- 操作室や門柱も目立たなく、周囲に溶け込んでいる。

初川水門完成イメージ（渚デッキから望む）

